ニッセイ基礎研究所
http://www.nli-research.co.jp

経済･金融フラッシュ

No.07-046　2007/07/25

貿易統計 07 年 6 月～4-6 月期の外需寄与度は 4 四半期ぶりのマイナスに

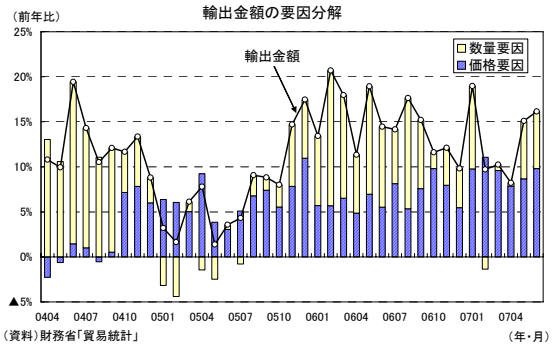
ニッセイ基礎研究所　経済調査部門　シニアエコノミスト　斎藤　太郎
TEL:03-3512-1836　E-mail:tsaito@nli-research.co.jp

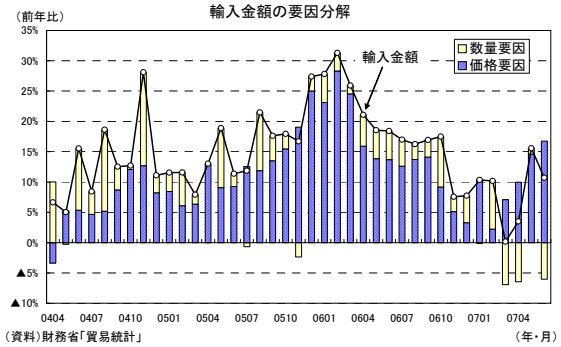
１．貿易収支は８ヵ月連続で改善

財務省が 7 月 25 日に公表した貿易統計によると、6 月の貿易黒字は 12,271 億円（前年比 53.4%）となり、市場予想（ロイター集計：9,485 億円、当社予想は 11,929 億円）を大きく上回った。貿易収支は 8 ヵ月連続で前年よりも改善した。

輸出数量が前年比 6.1%（5 月：同 6.2%）、輸出価格が前年比 9.5%（5 月：同 8.4%）とともに前月と同程度の伸びとなったため、輸出金額は前年比 16.2%（5 月：同 15.1%）と 2 ヵ月連続で二桁の伸びとなった。

輸入金額は前年比 10.7%と 5 月の同 15.6%から伸びが鈍化した。円安基調の継続、原材料価格の上昇などから輸入価格は前年比 17.2%（5 月：同 14.5%）と伸びを高めたが、輸入数量が前年比▲5.5%（5 月：同 0.9%）と大幅な減少に転じた。ただし、輸入数量の減少は、今年の 6 月の休日（土日）数が昨年よりも 1 日多かったため、通関日数が少なかったことも影響している可能性があることには留意する必要がある。



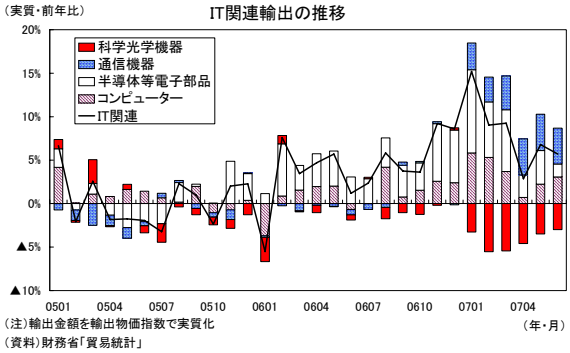


２．米国向け輸出が持ち直し

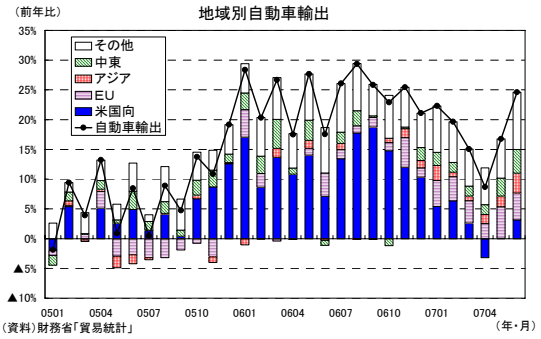
輸出の内訳を見ると、IT 関連品目では、科学光学機器は前年比▲11.6%と引き続き減少したが、コンピューター（同 10.3%）、半導体電子部品（同 7.8%）、通信機（同 101.9%）等が高い伸びとなり、全体では堅調を維持した。国内では、電子部品・デバイスの在庫積

み上がりが続いているが、IT 関連輸出の増加は在庫調整の進展を後押しする要因となろう。

自動車輸出は前年比 24.6%と 5 月の同 16.8%から伸びが高まった。EU 向け（前年比 27.8%）、アジア向け（同 46.9%）等が高い伸びを続けたことに加え、低迷していた米国向けも 5 月の前年比 0.2%から同 7.6%へと伸びを高めた。



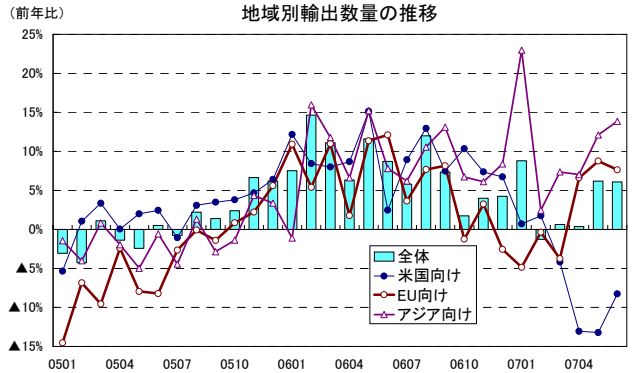
（注）輸出金額を輸出物価指数で実質化
（資料）財務省「貿易統計」



（資料）財務省「貿易統計」

輸出数量を地域別に見ると、EU 向けが前年比 7.7%（5 月：同 8.8%）、アジア向けが前年比 13.9%（5 月：同 12.1%）と好調を維持する中、大幅な落ち込みが続いていた米国向けも前年比▲8.3%（5 月：同▲13.2%）と持ち直しの動きとなった。

米国経済は 1-3 月期に前期比年率 0.7%の低成長となったが、7/27 に公表される 4-6 月期は前期比年率 3%台へのリバウンドが予想されている。1-3 月期、4-6 月期と輸出全体を大きく下押しした米国向け輸出だが、7 月期以降は回復に向かう可能性が高い。



（資料）財務省「貿易統計」

３．4-6 月期の外需寄与度は 4 四半期ぶりのマイナスに

6 月までの貿易統計と 5 月までの国際収支統計の結果を踏まえて、07 年 4-6 月期の実質ＧＤＰベースの輸出入を試算すると、輸出が前期比 1%程度、輸入が同 3%程度となる。輸入の伸びが輸出の伸びを大きく上回ることにより、外需寄与度は 06 年 4-6 月期以来、4 四半期ぶりにマイナスになると予想される。

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものでもありません。
（Copyright ニッセイ基礎研究所 禁転載）